

来春、ついに新幹線が福井にやってくる！

東京一極集中PRは効果があるか？

待ちに待った新幹線が来春、金沢から敦賀まで延伸、開業する。芦原温泉、福井、越前、前たけふ、敦賀の各駅は周辺開発も進み、受け入れ態勢が整い始めている。県は「100年に一度のチャンス」と、東京駅など首都圏で莫大な公費を投じイベント開催やポスターを掲示し、福井を少しでも知ってもらおうと必死だ。しかし、本県の観光客の7割弱は関西や中京が占めている。東京一極集中PRの宣伝効果は如何ばかりか？

100年に一度のチャンスを迎えている

来春、ついに北陸新幹線金沢―敦賀間が開業する。平成27年3月の金沢開業から遅れること9年。本県悲願の開業に向けて芦原温泉、福井、越前、前たけふ、敦賀の各駅は周辺開発も進み、受け入れ態勢が整い始めている。

令和3年8月、福井県観光連盟は「観光地域づくりマネージャー」を全国公募し、地元あわら市出身で、民間シン

クタンク紀尾井町戦略研究所の上席コンサルタントを務める佐竹正範氏が就任。新幹線開業に向け、民間プレイヤーの発掘や観光資源の磨き上げなどにより、観光で「稼ぐ」地域づくりを推進し、本県の観光振興の旗振り役を担う。

昨年11月、県はJR東日本東京駅及びKITTEにて、福井県の魅力を紹介する「北陸新幹線福井・敦賀開業カウ

ントダウンキャンペーン」を開催した。東京駅で単独自治体が行うキャンペーンとしては過去最大規模のイベントで、物産フェアや恐竜展示など1カ月にわたり福井の魅力を強力にアピール。県と観光連盟は平成28年から認知度向上

に東京駅、上野駅、大宮駅など首都圏の主な駅にポスターを掲出。開業に向け、さらなる首都圏からの観光誘客を図るため、新たな観光ポスター27種類を制作した。さらに県内の主要施設等に開業日を大々的にPRするポスター・のぼり・フラッグを制作し、

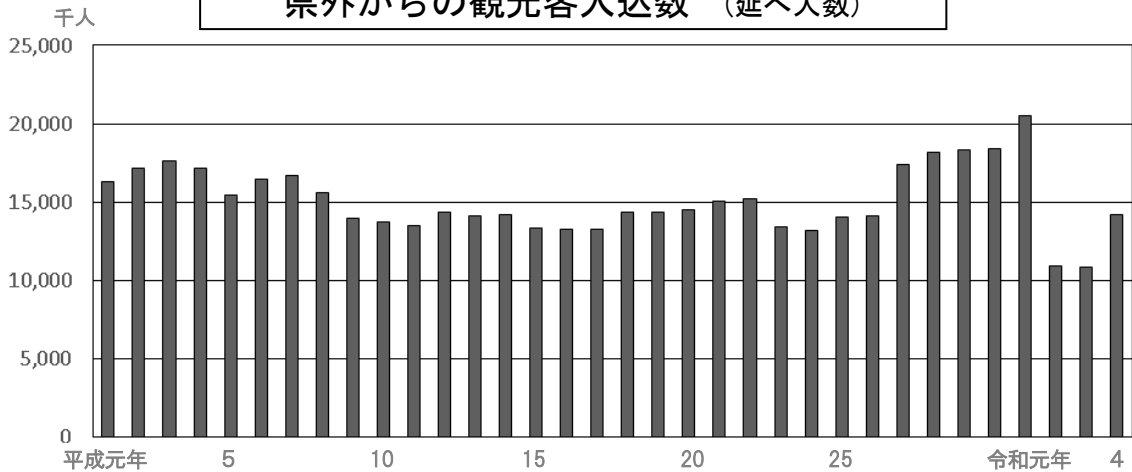


佐竹正範氏

福井県観光連盟・観光地域づくりマネージャー

県民の期待感を高めるそうだ。本年度の当初予算も知事選を控え骨格予算ながら新幹線開業を万全の態勢で迎える総仕上げの年度とし、骨格予算として平成11年に次いで過去

県外からの観光客入込数 (延べ人数)



2番目に大きな規模となった。福井の玄関口となる福井駅周辺では莫大な公費を投じ市街地開発が進み、開業1年延期もあつて三角地帯のA街地にマンションやホテル、商業施設が入る再開発ビルが来年夏に完成予定。B街地は紆余曲折あり、完成時期が1年遅れの令和7年秋にずれ込む見通しとなった。福井駅高架下



東京駅カウントダウンキャンペーン・昨年11月

福井県の観光客入込数は、コロナ前の令和元年に1810万人と過去最高となった。昨年の入込数(実人数)は、日帰り客が1279万人、宿泊客が240万1千人、合計で1519万1千人。令和元年のコロナ前比では全体で8割強まで、また県内客は約99%と、ほぼコロナ前の水準まで回復。しかし県外客は前年比で大きく伸びながらも未だ7

割弱に留まっている。とりわけ「恐竜博物館・かつやま恐竜の森」、「大本山永平寺」を筆頭に、「10月に博物館がオープンした「一乗谷朝倉氏遺跡」や、「東尋坊」、「あわら温泉」など、県外に広く知られている観光地で前年比3割以上の増加がみられた。県外からの観光客は624万6千人と、全国的な人流の回復を受けて前年から大きく

認知度も魅力度も低い福井に勝算は？

「プリズム福井」も閉店し、来春の開業に合わせ新商業施設をオープンする。内装整備が進む福井駅構内は、社会学者、作家である古



福井市PRポスター

市憲寿さんを主役とした何パターンかの「福いいネ！」の福井市PRポスターが所々に張られ、開業を待つ。杉本知事は「福井県は今、100年に一度のチャンスを迎えている」と声高く何度も繰り返すが、待ちに待った新幹線が敦賀まで延伸すると、県内に国内外から観光客が訪れ、駅や観光地はこれまでにない賑わいを見せるのか。